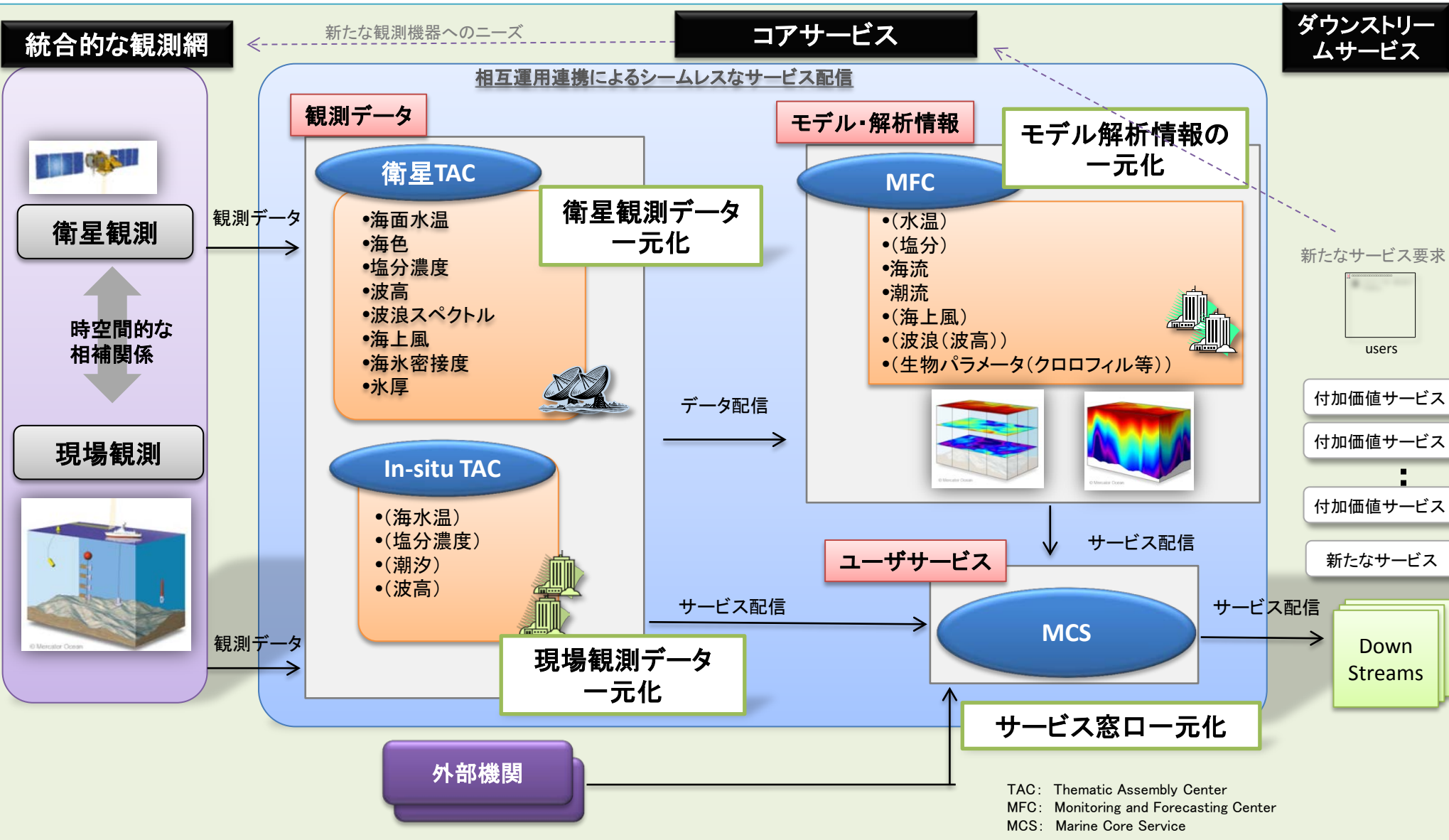


デモンストレーションの位置付けとポイント

平成26年度 海洋・宇宙連携委員会 End-to-Endユーザグループ
第3回検討会

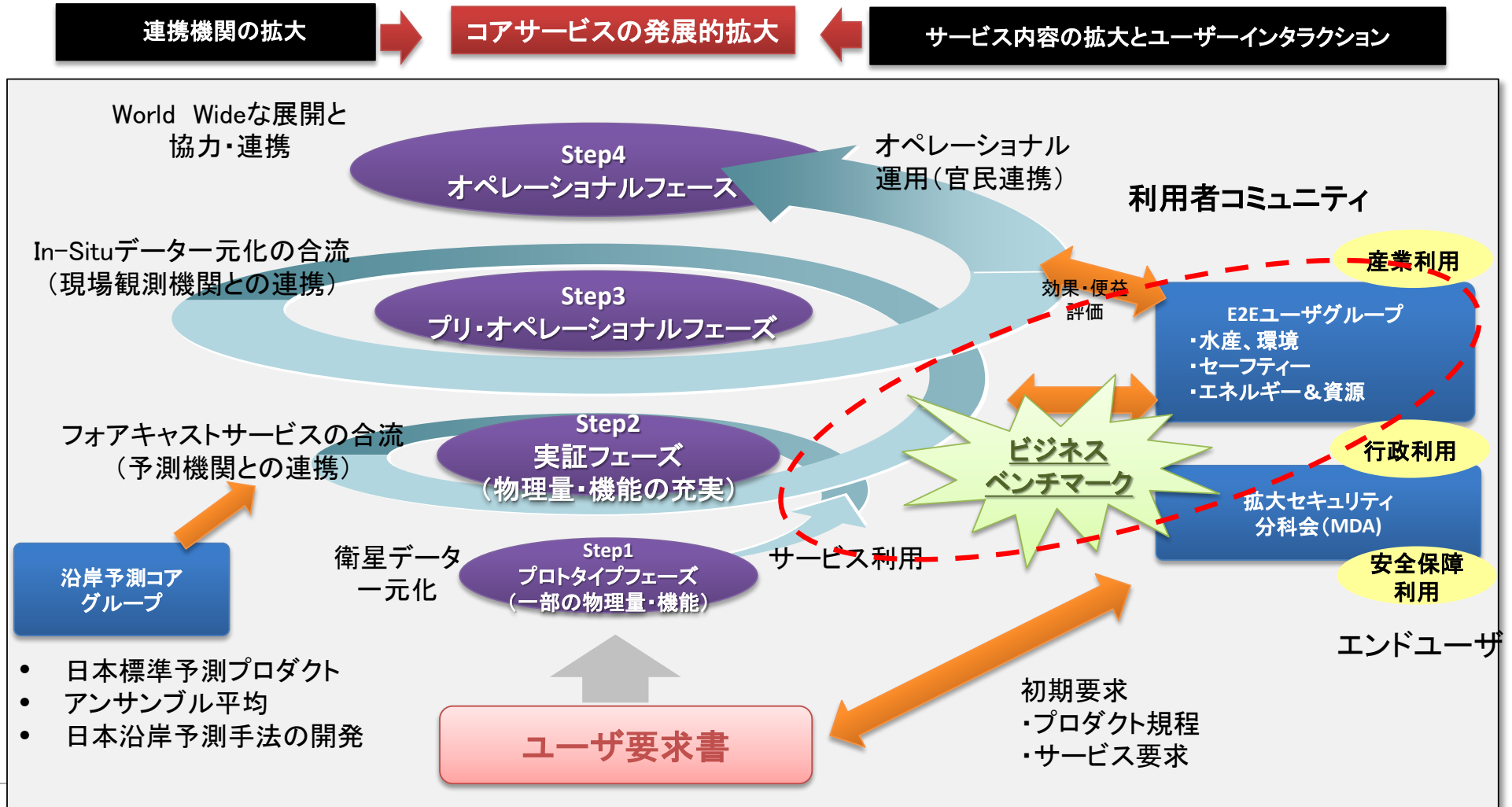
平成27年3月26日

コアサービスの構成要素



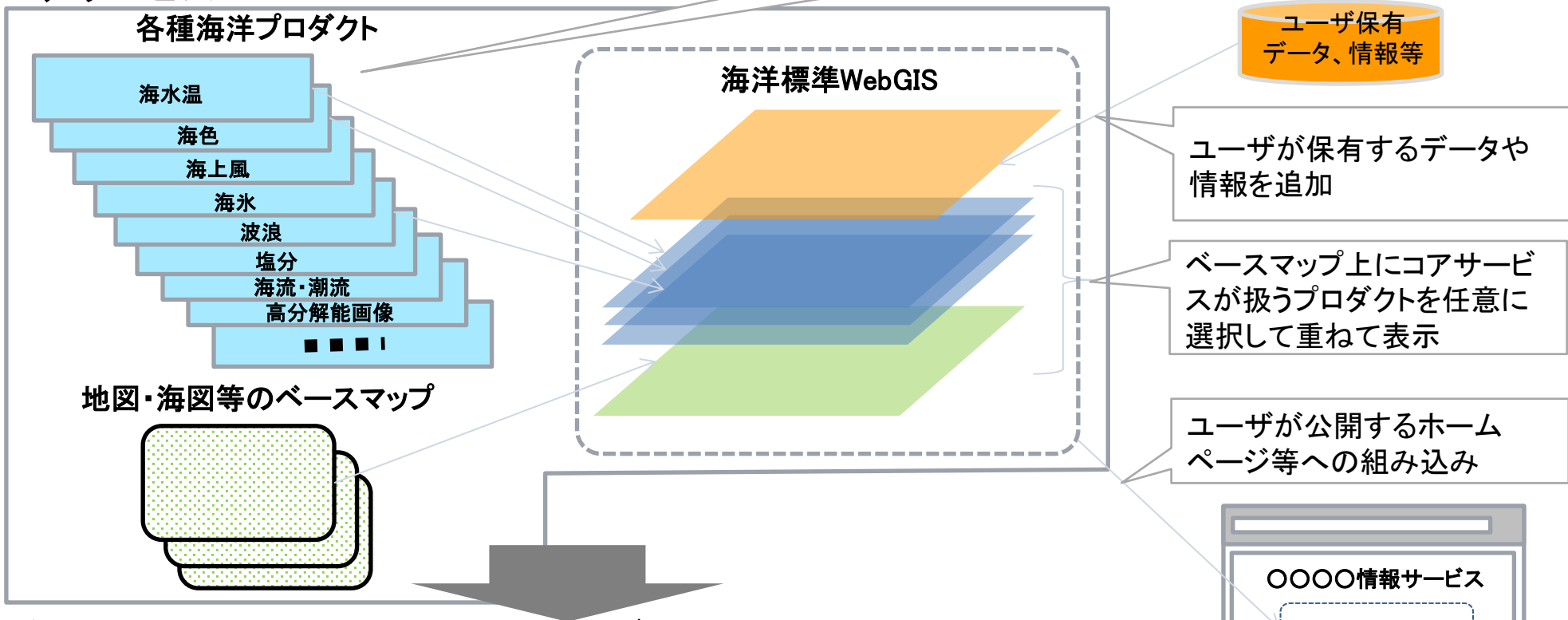
コアサービスの段階的な整備・構築の構想

衛星データの一元化を皮切りに、予測機関や現場観測機関、国外の海洋データ提供機関との連携を含めてコアサービスを段階的に整備・構築する構想において、付加価値提供者をはじめとする利用ユーザとのインタラクションを通じて**継続的に要件を吸い上げる**とともに、**ユーザのコアサービスの積極的な利用への移行を促す**ことを目的とした実証活動(ビジネスベンチマーク)を実施。



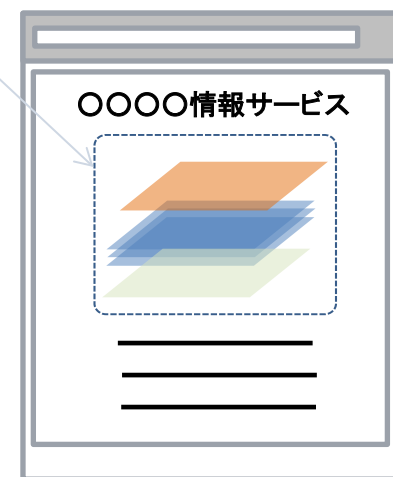
海洋標準WebGISの特徴

コアサービス



海洋標準WebGISを利用したコアサービス活用で期待される効果

- 事業の高度化・高付加価値化
 - ✓ コアサービスで整備される海洋データを利用することによる事業の高度化、高付加価値化
- 定常的な作業の簡素化
 - ✓ 業務において定常的に行われるデータ選択、加工、表示におけるユーザの作業負担を軽減、付加価値の創出等により多くのリソースを投入
- 成果公開等の標準化、再利用化
 - ✓ 海洋標準WebGISを利用したホームページ等の操作感が統一、公開可能なコンテンツはツールとして共有、複数のユーザで再利用も可能



ユーザが公開するホームページ等

コアサービス／WebGISデモンストレーションと今後の検討分野

ビジネスベンチマーク

■ 本日もご覧いただきデモンストレーションと今後の検討分野

付加価値サービスの安定化

環境評価

沿岸漁業：金目鯛漁

海上安全

遠洋漁業：カツオ一本釣り

今後の検討分野

災害分野

赤潮等の環境分野

船舶情報

現場観測との連携

情報のGeoCode化